

第3回 八尾市総合計画審議会 第2部会 議事録

日 時：令和2年1月9日（木）18時30分～20時30分

場 所：八尾市役所8階 第2委員会室

出席者：清水委員（部会長）、和田委員（副部会長）、和泉委員、谷原委員、岩本委員、
椎野委員、丹波委員、織田委員、大本委員、野村委員、植島委員、轉馬委員

欠席者：吉田委員、増田委員、川野委員、築澤委員、栴谷委員、花嶋委員

1. 開会

事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまより「第3回八尾市総合計画審議会 第2部会」を開催させていただきます。

2. 議事

それでは、これからの議事進行につきましては、部会長にお願いしたいと思います。清水部会長、よろしくお願いします。

（1）八尾市第6次総合計画（行政素案）基本計画について

清水部会長

前回は基本計画の、特に施策を中心に多様なご意見をいただきましたが、事務局から説明がありました通り、時間の都合により、全体についてご発言できなかった点があると思います。資料2で言うと、基本計画の15ページから16ページの「横断的な視点によるまちづくりの実践」、19ページ以降の第6章「施策について」のどちらでも結構です。

追加でご意見がございましたら、いただきたいと思います。前回、20ページの体系や関連するまちづくりの目標に対するご意見も出ていたように思います。

（意見なし）

（2）追加資料について

清水部会長

事前に委員各位へ送付いただきました追加資料については、第1回の各専門部会において委員の皆様よりいただいたご意見の、特に基本構想にかかる部分について、市の考え方をお示ししているとの説明がされておりました。この点について、改めて事務局より説明願います。

事務局

(資料8説明)

清水部会長

確認しておきたい点などはございませんでしょうか。

和田副部会長

資料8と基本計画で、合わせた提案をさせていただきます。資料8の1番の「市の考え方」に、SDGsに関する回答があります。今回SDGsを計画に入れることは不可欠だと思いますが、基本計画の16ページに出てくるのは唐突です。横断的ということで入れているのだと思いますが、今回、「まちづくりの実践」の中の「横断的な視点によるまちづくりの実践」と「共創と共生の地域づくりの実践」は、どちらもSDGsに関わりますが、16ページに入れると、「横断的な視点によるまちづくりの実践」にしかかからないように見えます。どうせ入れるなら、18ページの後、もしくは、「まちづくりの実践」の前振りとしてSDGsについて入れるのがよいです。16ページの記載は、「SDGs（エスディーズ）とは」として、政府や国際機関の説明をそのまま抜き出しただけで終わっています。資料8で、「SDGsへの貢献を見据え、具体的な取り組みを検討してまいります」と八尾市として検討すると回答しているため、八尾市とSDGsの関係を謳う部分が必要です。時代の流れだから八尾市の基本計画に入れるのではなく、八尾市としてのSDGsへの貢献、意義を踏まえることが必要です。今のままでは、どの市の計画でも通用する内容となっています。せっかく記載していてもインパクトがありません。八尾市の意気込みを示すこととして、SDGsを入れる場所と八尾市にとってのSDGsの意義、取り組みを検討して、入れてはどうかと思います。

事務局

SDGsについては、1月6日の第3部会でも意見をいただきました。SDGsにも目標値が設定されており、基本計画にSDGsの目標を入れています。施策1から34に掲げている「めざす暮らしの姿」や基本方針は、基本構想で設定している6つのまちづくりの目標を達成するために行うもので、そこにSDGsも入っています。ピクトグラムのマークは目を引き、市民が見たときには、どうしても目を引くほうにいつてしまいがちです。八尾市がどちらを目指すか整理が必要です。先ほど、「唐突感がある」などのご意見もあったことから、方法としては、各施策にSDGsを入れるのではなく、「八尾市が6つのまちづくりの目標に取り組むことでSDGsの国際規格にも貢献する」という流れが作れないかと思っています。その方向で、SDGsと八尾市との関係を整理したいと考えています。

(3) 八尾市第6次総合計画（行政素案）基本構想について

清水部会長

第1回の部会においてご説明がありました通り、基本構想については大きく3つの審議をいたします。

まず1つ目が、「地域のまちづくり」についてです。こちらは基本構想と基本計画の関連性を重視し、基本構想の8ページ第3章の「(2) 共創と共生の地域づくり」の部分と、基本計画の17ページ第5章の「2 共創と共生の地域づくりの実践」を合わせて議論します。

2つ目が、基本構想の3ページから11ページの第3章「八尾市の将来について」です。

3つ目が、基本構想の12ページの第4章「総合計画の構成と推進」についてです。

最後に、基本構想と基本計画全般について、第1章「総合計画策定の目的」、第2章「八尾市を取り巻く社会経済環境」も含めてご意見をいただきたいと思います。

本日は、部会としては最後になるため、積極的なご発言をお願いします。

(3-1) 共創と共生の地域づくりについて

清水部会長

「地域のまちづくり」については、先ほど申し上げましたが、8ページの第3章の「(2) 共創と共生の地域づくり」の部分と、基本計画の17ページ第5章の「2 共創と共生の地域づくりの実践」を合わせて議論します。前回の説明から少し時間がたっていますので、事務局から概要の説明と議論のポイントについて説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

椎野委員

8ページで、肝になるところに「社会的包摂」や「インクルーシブな視点」などの文言が使われていて、理解しにくいです。この言葉しかないのであればこれでよいですが、同じ意味を簡単な言い回しでできればよいと思います。

清水部会長

文言については、前回の各施策の議論の際にも、「分かりにくい、言い回しが回りくどい」などのご指摘がありました。工夫していただけますか。

事務局

カタカナや横文字、市民が普段使い慣れていない言葉は見直しを行います。変更できないものは用語の解説を入れ、変更できるものはニュアンスが変わらない範囲で変更します。

野村委員

人口減少と少子高齢化に伴って、今後は採用に関しても必ず外国人が必要になります。多様性については記載がありますが、外国人のことがあまり書かれていないことが気になりました。

本日、インバウンドの研究会に行ってきたのですが、民泊についても議論がありました。地域の人とどのようにして連携をとってまちづくりに生かすかなども話題になっていました。問題もあるかもしれませんが、地域が活性化するためには外国人にも来ていただくことが必要で、「八尾市はすばらしい」ということを対外的に発信するためには、日本人の力だけでは弱いです。中のコミュニティだけでなく、外向きの活動もしなければ、八尾市が廃れていくのではと思います。先を見据えてまちづくりをしていただければと思います。

清水部会長

その辺りの表記についても、検討ください。

大本委員

17 ページの「共創と共生の地域づくりの実践」の「実践の方針」で、『『どういう地域でありたいのか』という住民ニーズを広く把握しと』ありますが、どのような作業でニーズをくみ取るのですか。18 ページを見ると、地域コミュニティは小学校区毎の校区まちづくり協議会の形で進んでいることが分かります。八尾市の小学校区は28あるため、28の「わがまち推進計画」が出来上がってきます。その地域に住んでいる人が、「わがまち推進計画」を見たいと思ったときには、どの段階で、どのようにして理解することができますか。八尾市は28の「わがまち推進計画」をどのように管理して、施策目標の達成に向けてフォローしているかを教えてください。

事務局

小学校区毎に校区まちづくり協議会があり、それ毎に「わがまち推進計画」を作っています。2020年度に第5次総合計画が終わると共に、「わがまち推進計画」も終わりますが、次の「わがまち推進計画」を作るときに住民ニーズを広く把握するということが記載されています。住民ニーズを広く把握するために、前回の「わがまち推進計画」を作るときには、校区内の住民にアンケートを配って実施しました。また、「どのようなまちにしたいか」をテーマに誰でも参加できるワークショップを開催しました。「わがまち推進計画」を校区内の住民だけでなく広く世間に発信するために、校区まちづくり協議会が、冊子だけでなく、ホームページに掲載したりしています。

予算や優先順位などから、行政が地域の「このようなまちにしてほしい」ということをすべて反映することは難しいですが、「わがまち進計画」を見て、地域の思いをくみ取りながら行政施策を進めるよう考えています。周知は紙の冊子の他、ホームページでも行い、校区

内外の多くの方に知っていただくようにしています。

和泉委員

小学校区でのまちづくりは大切にすればよいと思いますが、内向きな話が多いです。地域コミュニティ同士や校区同士のつながりも理念に含まれるため、一文を加えてもよいと思います。

清水部会長

外国人やインバウンド、校区同士のつながりの話が出ましたが、第1回目の部会の施策の議論のときにも、広域的な視点や、「八尾市だけでなく他の地域とのつながりの視点も必要」というご意見がありました。

岩本委員

18 ページの「実践の内容」の「基礎自治体は住民のニーズにきめ細やかに応えていくことが困難になっていく。その中で地域自治組織の役割は増大していく」というのは事実ですが、一方、一般の市民は生活が忙しく、そのような場に参加しにくい時代になっています。高齢者は時間があるから参加できますが、市民がそのようなところに参加できないことが問題です。もっと参加しやすくしたり、様々な形で意見を述べやすくする努力が行政の責任です。そこがもう少し積極的に言えないかと思います。

例えば、IT技術で受け止めることもできますし、駅前の駐輪場に意見箱を置くことも1つの例です。八尾市の広報でレスポンスを受けることを検討するなど、「参画を広げる」視点が必要です。ニーズをどのように施策と結び付けていくか、幅広い意見を吸い上げていくかは難しいですが、何かを打ち出さなければ、今の時代には合いません。大変難しいことなので、成功できている自治体は少ないです。意見をもっている、どのように申し上げればよいかと思っている市民や企業の方も多いと思います。

事務局

一般市民は、アンケートをとっても、「活動に参加したくない」という人はそれほど多くはないのですが、日々の生活に忙しいため活動に参加しにくいという人が多いです。市としても、多くの人に地域活動に参加していただきたいですし、今まで参加したことがない人にも参加していただきたいと思っています。時間をとらなければ参加できない活動は、「時間をとられる」ということで、紹介できていないかもしれません。「できるときに、できる活動を行う」という参加の仕方が必要であり、行政もそれを紹介したり、提案することが必要だと思います。文章としてどう書けるかは分かりませんが、「様々な人が参加しやすい、様々な人に参加してほしい」ということが読み取れるように書いていきたいと思っています。

清水部会長

私からですが、基本構想と基本計画の違いだと思いますが、8ページと17ページの書きぶりにむらがあります。特に、17ページの「共創と共生の地域づくりの実践」の共創と共生の説明は、ここにあるのがよいか疑問です。基本構想でこれを説明したうえで、ここにくるのがよいと思います。8ページの基本構想で、「横断的な視点によるまちづくり」と7ページから9ページにかけての(2)(3)は、同じ章にありながら、記載の密度と言いますか、具体性にかなり温度差があります。整理していただきたいと思います。8ページ、17～18ページでつながりが見えるような形にしたほうがよいです。8ページは防災、子育てと具体的なことが出てきますが、方針にはあまり出てきません。内容のほうに出てくるのではと思います。基本構想にどこまで書くか、基本計画に何を担わせるのか、整理をお願いします。あちこちを読むとやっと分かるのですが、すんなりとは読みにくい印象です。

(3-2) 第3章 八尾市の将来について

清水部会長

第1回でも皆様より感想を中心にご意見をいただきました、3ページからの第3章「八尾市の将来」について、ご意見をいただきたいと思います。3ページから11ページとなります。こちらも前回の説明から少し時間がたっておりますので、事務局から概要の説明と議論のポイントについて説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

清水部会長

追加資料のご説明がありましたが、第1回のご意見に対して、市の考え方が示されております。第1回、第2回において基本計画の中身となる施策についてご意見をいただきましたが、その内容を踏まえ、八尾市の将来像をどういったものにすればよいか、ご意見がございましたら、お聞かせいただきたいと思います。

野村委員

個人的な意見かもしれませんが、最初に「つながる、つづく、かがやく幸せ成長都市 八尾」を見たときに、なぜ「つながる、かがやく、つづく」ではないのかと思いました。つながって自分自身が輝き、他の人も輝くことで、住み続けたい、働き続けたいと思うのではないかと思います。

清水部会長

事務局からコメントはありますか。

事務局

この文言を検討する際に、庁内の若手職員が、「どのようなまちなればよいか」についてキャラクターを設定して検討しました。「子育て中のお母さんにはこのようなまち」、「学生にはこのようなまち」などのストーリーを検討しながら将来都市像を考え、その中から、「つながる、つづく、かがやく」という文言が出てきました。順番は、元々、八尾市民には共に助け合う風土があることから、「つながる」を最初にもってきました。まちが「つづく」ためには、子どもや若者に住みよいまちになって、市民が輝いて活気ある八尾市を支えて活躍していただきたいということから、「つながる、つづく、かがやく」という順番にしました。確かに「つながる、かがやく、つづく」のほうが通りがよいかもかもしれません。ご意見を聞いて、変えていきたいと思えます。

和田副部長

順番については、野村委員と同じ意見です。ただ今の説明と絡めて事務局で検討していただきたいと思えます。八尾市は「つながる、つづく、かがやく」を並列で考えるのか、もしくは、野村委員と同じ考えなのですが、段階的にストーリーを踏んで最終的に向かう将来像を考えるかで、まったく変わってきます。大事なところなので、十分検討して設定したほうが、市民に納得していただけたらと思えます。

谷原委員

最初に「将来都市像」を見たときに、自分でも原因の分からない違和感がありました。他の自治体の、第4次、第5次の総合計画の将来都市像を見ると、キーワードで多いのは「笑顔、元気、夢」などの普通名詞であり、ゴールを表している言葉でした。それに対して、八尾市の「将来都市像」は手段になっています。自分の中の得体のしれないもやもや感は、「これがゴールなのだろうか」という思いだったことが分かりました。「つながってどうするか」、「つづけてどうするか」が見えなかったため違和感をもったのだと思えます。ただし、5ページの「まちづくりの目標と取り組み方向」にはいろいろ書いてあるため、ここで腑に落ちました。あまり例のない作り方で、チャレンジングな設定なので、私は評価しています。

和泉委員

8ページの最後の「これまでまちづくりに関わる機会がなかった多様な立場の市民が地域活動に関わるきっかけを増やし、担い手の層を厚くしていきます」は、素敵な文章なので、このまま6ページの「⑥」の目標にすべきです。6ページの「⑥」の「あらゆる担い手」という文言で、それを表現しているのかもしれませんが、その後「多様な主体が知恵を出し合い」という言葉で目標を掲げています。「主体」という文言は、組織や物事の中心を表す言葉なので、8ページの「まちづくりに関わる機会がなかった多様な立場の市民」が含まれて

いないように思います。「アクター（行為主体）」という意味での「主体」として使っていると思いますが、「多様な主体」と言うと、まちづくりが好きな人の会のようなイメージになります。ここはこだわったほうがよいです。せっかく8ページに「まちづくりに関わる機会がなかった多様な立場の市民」と表現しているのです、これをそのまま6ページの「⑥」でも使ったほうがよいと思います。個人的な意見ですが、「主体」などの言葉を置き換えることを検討してはどうかと思います。

6つのまちづくりの目標のうち、「⑤つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」を除いては、他の自治体でも見られる内容です。「⑤」のように、「自分らしく」などを記載した総合計画はあまり見たことがなく、八尾市の特徴としてよいと思います。ただし、「自分らしさ」は難しいです。「⑥ みんなの力でともにつくる持続可能なまち」は、「みんなの力でともにつくる」と「持続可能なまち」の2つでできていますが、すんなり入ってきます。一方、「⑤」の「つながりを持ち」と「自分らしさが実現できるまち」は、「つながりをもつこと」と、「自分らしさを表現すること」が1つの文章でよいか疑問です。厳密に言うと、「つながる」だけでも1つの番号がつけられるため、「⑤」は2つに分けることができます。しかし、「⑤」は総合計画としては八尾市にしかないことを目標としているため、大事にしたいという思いもあり、具体案はないのですが、もっと検討してもよいと思います。「自分を表現し自分らしく」は同じような気もします。

清水部会長

アイデアがあればお願いします。

大本委員

「4. 人口見通し」についてです。八尾市の推計人口と想定人口がグラフでも表されていますが、八尾市の昼間人口と夜間人口の推計から把握したり、目標をもつような考えはありませんか。

事務局

現状では、昼間人口と夜間人口の比較まではできていません。八尾市は、ものづくりのまちですが、住宅が広がっているところもあります。昼間人口と夜間人口も注目しなければならぬと思っています。

織田委員

5ページの「③ 活気にあふれ、誰もが誇りを持ち活躍できるまち」で、「企業が活気にあふれる『活気にあふれ、誰もが誇りを持ち活躍できるまち』をめざします」については、具体的な施策もあると思いますが、ここに記載されているだけで、他に記載がないことが気になります。

清水部会長

「③」は、八尾の顔と言いますか、ものづくりにも関連するところだと思います。

丹波委員

私も織田委員と同じことをずっと思っていました。「将来都市像」にも、企業のことが入っていないように思います。他の自治体でこのような会議に参加したことがないため、分からないのですが、総合計画は市民のことばかりを書くものなのでしょうか。企業活動に関する表記が少ないように思います。将来的に八尾市が発展するためには、市民の生活も大事ですが、企業活動が発展しなければ難しいです。記載を入れたほうがよいと思います。

事務局

1 ページの中段に「市民の定義」を「八尾市内に住み、働き、学び、又は事業を営む全ての人及び八尾市内に事業所を有する法人その他の団体をいう」と記載しており、「事業所も含めて市民」という表記をしています。ご指摘のように、総合計画の中で、企業の将来的なあるべき姿がしっかり読み取れないため、検討すべきだと思います。

大本委員から昼間人口と夜間人口についてご意見がありました。昼間人口は、通勤・通学で八尾に来られた方も含め、日中八尾市にいる人口、夜間人口は八尾市に住宅を構えて住んでいる人口です。八尾市の転入と転出の現状を見ると、20代、30代の転出が多い傾向です。理想は、八尾で生まれ八尾で育ち、八尾で働いて家庭をもって八尾で老いていくことです。八尾に住み続けたいと思うことが、これにつながっていきます。一時的に市外に出たとしても、第一線で活躍した後は、また八尾に帰りたいと思ってもらえるような八尾市への誇りをもっていただきたいと思います。「自分は八尾で生まれ育った」という思いをもつていただくことは、関係人口にも関わります。そのようなことが計画の中から読み取れる書きぶりにしなければならないと思います。書きぶりは今後検討します。

清水部会長

ただ今のお話は感動的で、八尾市が本当にそうなればよいと思います。その内容が盛り込まれた総合計画になればよいと思います。

9 ページの「(3) 幸せ成長のための都市づくり」の書きぶりについては、第1回目の会議でも、タイトルと中身が合っていないという指摘をさせていただきました。まさに、今のお話がここに盛り込まれればよいと思います。今の記載はインフラ整備など、ハード面の整備が中心ですが、「幸せ成長」とは一体どのようなことなのかをここに記載して、そのための推進方策につなげたほうが、9 ページがより充実すると思います。

和田副部会長

人口の話が出ているので、それに関連して意見を述べます。八尾市にずっと住み続けることを幸せ成長と考えることは、日本人の観点です。昼間人口、夜間人口、定住に加えて、八尾市の特徴である就業者のことを考えると、今後、就業者に占める外国人労働者の割合も増えると思います。八尾市は、日経新聞でベトナム人のことが取り上げられたように共生に力を入れているため、この辺りも盛り込んで、外国人も受け入れるまちと言いますか、ユニバーサルの観点も入れられればと思います。

清水部会長

ぜひ検討をお願いします。

(3-3) 第4章 総合計画の構成と推進について

清水部会長

本章では、八尾市総合計画策定条例に定められている、総合計画の構成と計画の推進期間について示されています。こちらも前回の説明から少し時間がたっていますので、事務局から概要の説明と議論のポイントについて説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

清水部会長

この章のポイントは、総合計画の期間が基本構想8年、基本計画4年でよいか、また基本計画の評価はどうするかというところかだと思います。できれば、この点について皆様よりご意見をいただきたいと思います。

椎野委員

12 ページの表ですが、このような三角になるのかどうか疑問に思いました。四角がよいかどうかも分かりませんが。上から、基本構想8年、その下に基本計画4年、実施計画4年という表記の仕方が、イメージに合っているのかどうかという疑問をもっています。

清水部会長

事務局にこだわりはありますか。

事務局

ピラミッドの上部に、年数の長い8年、下が4年、4年というのが違和感があるということでしょうか。ピラミッドの図は絶対ではありませんが、将来都市像やまちづくりの目標、「このような八尾市になればよい」などを定めた基本構想を一番上にもってきて、基本構想

の実現に向けた取り組み方針と内容である基本計画、具体的な取り組みである実施計画を記載するというところで、ピラミッド型にしています。われわれ行政はピラミッド型は見慣れているのですが、デザイン等を検討します。

清水部会長

確かに、大枠の基本構想が上位に来ますが、市民が見たときの印象を踏まえて検討いただきたいと思います。

谷原委員

他市の例を見ると、計画期間が8年というのはあまりなく10年が多いです。大阪府の市で50年というところもあるようです。総合計画の計画期間を10年にすると、「大阪・関西万博」が開催される2025年がちょうど中間の年になり、良い節目になります。万博に向けて施策を行って成果が出ればよいと思いますし、後期は2030年でSDGsのゴールの年です。「計画期間は10年のほうがよい」とまでは言いませんが、そうすればいろいろと収まりがよくなると思います。

和田副部会長

谷原委員は第1回の会議にご欠席だったので、計画期間10年についてのご意見でしたが、事務局は「チャレンジで」と言われ、議論の中でも、「8年もありうる」という意見もあれば、「5年が無難」という意見もあるということで終わりました。最終的に事務局がどう考えるかです。10年を節目と考えるか、時代の変化があまりにも速いため5年でも長すぎると考えるかどうかです。今後ますます時代の変化のスピード化が進むと思われるため、8年でも、その中間の4年でも長いかもしれません。ただし総合計画なので、あまり短いのもどうかと思います。

計画期間が50年というところもあるということですが、見直しはどのようにされるのでしょうか。

谷原委員

前期、後期で分けておらず、50年としているようです。

和田副部会長

計画としては50年として、中身をどんどん更新していく考え方もあると思います。事務局は「チャレンジで」と言われていましたが、私は8年がよいのではと思います。

谷原委員

「10年にしてほしい」とは思っていません。8年でよいです。「大阪・関西万博」は、ハ

イテック技術や自然、環境など様々なテーマで盛り上がると思います。八尾市の市民意識もそれに引っ張られ、企業の取り組みも動くと思います。それを意識して目標値を設定することが必要です。そのようにしていただければ幸いです。

事務局

行政素案の12ページのピラミッドは、計画の構成上、上に行けば行くほど理念的、抽象的で、下に行くほど具体的になります。先ほどの谷原委員のご指摘のように、5年後は「大阪・関西万博」があります。また、八尾市には中小企業が集積しており、「みせるばやお」で異業種の企業同士が集まってそれぞれの技術をもち寄って何か新しいことをしようという動きがあり、頑張っておられます。「大阪・関西万博」をにらんで何かしていただけるように支援していきたいと思っています。この場で議論いただいているのは基本構想、基本計画ですが、もっと下のレベルの実施計画で谷原委員のご意見を反映していきたいと思いません。

清水部会長

計画期間を10年から8年にすることについてですが、私も8年がぎりぎりだと思います。大きな総合計画をあまり短いスパンで策定するのは、市の運営としてどうかと思います。私は都市計画が専門で長いスパンで見たいと思うところがあるため、総合計画も50年とは言いませんが、10年、20年くらいは1本の軸を通して短いスパンで見直すやり方がよいと思います。皆様のご意見を伺っていると、概ね8年は受け入れていただけそうです。ただし、次のときに計画期間をこれ以上短くする議論が出るのは心配です。

<4-4. その他全般について>

清水部会長

最後に基本構想および基本計画全般について、1ページの第1章「総合計画策定の目的」、そして2ページの第2章「八尾市を取り巻く社会経済環境」も含めてご意見をいただきたいと思っています。これまで議論を進めてきた中で、言い漏れていた点、また補足しておきたい点等がございましたら、基本構想、基本計画どちらのパーツでも結構です。ご意見をいただきたいと思っています。なお、発言にあたりましては、具体的にどの箇所か、ページ番号などを添えていただけると、理解しやすいかと思っています。いかがでしょうか。

椎野委員

校区まちづくり協議会の話がありましたが、計画を作る上で広く意見を取り入れるのは、言うのは簡単ですが、皆に広く納得していただくのは難しいです。八尾市には、早くから外国人の方が住まれ、一緒に働き、永住権も取得されています。また、八尾市には技術がある会社が多く、人口は30万人近くあり、減少したとしても25万人の規模で、大変可能性の

あるまちです。まちづくりに関しては、特定の声の大きい人の意見を取り入れるのではなく、外国人や高齢者、企業など、今まで市に関与していない、発言していなかった人がどのような考えをもっているかを、幅広く聞く手段にこだわるのがよいと思います。そうするかどうかで、将来的に各市の計画に差が出てくると思います。今もされていますが、広く市民から話を聞くという難しい課題に、引き続き取り組んでいただきたいと思います。特に、声を聞くべき人の声を聞いていません。校区まちづくり協議会やインターネットなどの様々な手段で、幅広い人の意見を聞くことで、どんどん洗練された計画になっていくと思います。

岩本委員

八尾市は、地域経営や地域分権に関して、今回は「幸せ成長」という基礎を押さえた上で、いよいよ発展しようという、ホップ・ステップ・ジャンプのようになっています。中核市になって、施策の大枠はほぼ完結したと言いますか、行政ができるようになっており、その土台の上に幸せ成長を目指す方向に向かっているように思います。中核市について、どこかに書かれていると思いますが、あまり見当たりません。「中核市になって行政の仕組みやメニューは、八尾市でほぼできるようになってきたため、次は、市民と行政が一緒になって、幸せを成長させましょう」というストーリーがあればよいと思います。「経営、分権、幸せ」が、「ホップ・ステップ・ジャンプ」となって、よいと思います。中核市について、どこかに書かれていますか。中核市になったことで、行政がやろうと思うことがほぼできるようになったことがベースだと思います。

事務局

八尾市は平成30年4月に中核市になりました。ご意見のように、中核市になったことで、行政サービスの権限が増えました。保健医療のサービスも市で行うことになり、市民の健康の側面をしっかりと見ることができるようになりました。そのようなことを前提として、今後の8年を見据えときにどのようなまちづくりを行うかというストーリーを、どこかに書くことが必要だと思っています。貴重なご意見として今後検討します。

清水部会長

検討をお願いします。

椎野委員からご意見のあった「多様な意見を聞く仕組み」ですが、行政素案の18ページの「(2) 実践の内容」のところで、岩本委員からITの導入や意見箱を置くなどのご意見をいただきました。その辺りでカバーできるか、また和泉委員から「今まで市に関わる機会のなかった多様な立場の市民の声も聞くべき」というご指摘をいただいているため、様々なところに目配りをして検討を行って、文言等の確認をお願いします。

資料8の3番の人口見通しに関する「市の考え方」についてです。前回和田副部会長からの「人口見通しについては第2章に入れたほうが分かりやすい」というご意見に対して、「組

み替える」という回答が書かれています。次に提示いただく案は、そのように修正されると理解してよいでしょうか。

事務局

次に提示する案は、「市の考え方」を元にし、さらに第3回目の部会の意見も反映して修正します。

清水部会長

確かに、第3章では人口見通しが出てくるのが遅いため、第2章に入れるほうがよいと思います。

事務局

「市の考え方」にも記載していますが、「人口見通し」というタイトルもよくないように思います。ここでは、将来的な人口を見通すだけでなく、「第6次総合計画期間中には、…安心して八尾に住み続けられるようなまちづくりを進めていくことにより、社会増（転入者数＞転出者数）になるようにします」や、『関係人口』の考え方も踏まえ、八尾に興味や愛着を持って関わる人々を増やし、定住につなげる取り組みを進め、また、「国の『まち・ひと・しごと創生長期ビジョン』や『大阪府人口ビジョン』の趣旨を勘案し、若者世代とりわけ子育てファミリー世代を中心とした世代の定住を図るという視点を持ち、取り組みを進めます」などの取り組みによって、想定人口の達成をめざしたいということを記載しています。それを実践する前提として、「まちづくりの推進方策」で「(1) 横断的な視点によるまちづくり」、「(2) 共創と共生の地域づくり」、「(3) 幸せ成長のための都市づくり」を進めていきたいという流れにするため、10～11 ページに記載しています。ここでの「人口見通し」は、単に人口見通しをしているだけでなく、想定人口を設定して、「このような八尾市のまちづくりを行っていくため、このような人口をめざす」という考えを示したいと思っています。ご提案をいただいたのに申し訳ありませんが、それが、「市の考え方」です。

清水部会長

私も「市の考え方」が理解できていなかったようです。今の説明の流れになるということです。

和田副部会長

今の説明でよく分かりました。単なる「人口見通し」ではなく、八尾市がどのような人口を考えるかを、推計人口と想定人口で書かれているということが分かりました。その上で、2ページの「人口減少と少子高齢化の進行」は、市民に理解していただくために、現状の人口がどうなっているかをもう少し詳しく記載したほうがよいと思います。

6ページの「⑤つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」は、よい言葉なのでさらっと読んでいましたが、先ほど和泉委員の『「つながりを持つ」と『自分らしい』という重いテーマを2つも盛り込んでいる」というご意見について、事務局にお聞きします。「つながり」は、第2部会の担当ではないところで、端々に出ています。例えば、施策23の「つながり・支え合う地域福祉のしくみづくり」で具体的に出てきており、オーバーラップしますが、「自分らしさ」がここに入るとすれば、非常にオリジナリティが高いです。和泉委員が「八尾市がこれを実現するのは、面白いが難しい」と言われていましたが、本当にそうだと思います。「自分らしさ」という表現はあまり出てきません。「いろいろとやってきた結果、皆が自分らしさをもつ」ということですが、「自分らしさ」という言葉は具体的には出てきません。あえて言うなら、施策27の「一人ひとりの人権が尊重される差別のない社会の推進」の人権関係や、施策29の「多文化共生の推進」です。皆が尊重されることで、結果的に自分らしさを出せて、自己表現できるということだと思いますが、「⑤つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」だけで、大きな目標に入れるのは、つながりが難しいと思います。事務局は、この点に関していかがですか。

事務局

3ページの「つながる、つづく、かがやく」について、野村委員からは3つの言葉の順番についてご指摘があり、また「つながる、つづく、かがやくにストーリーが必要」というご指摘もありました。本日、「皆がつながって、つながることでそれぞれがかがやく」というご意見を聞いて、「自分らしさが実現できるから、かがやける」ということがヒントになって、「⑤つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」がうまく説明できればよいと思いました。本日の議論の内容を受け止めて、将来都市像にストーリーをもたせることとし、そのストーリーが、「まちづくりの目標と取り組み方向」につながり、「自分らしさとは何か」が理解できる書きぶりを検討したいと思います。難しい問題で、本日、回答できるのはこのくらいです。

和田副部長

3ページの「(かがやく)」に「人権尊重」が出てくるため、今の説明でつながります。ただ今の事務局の説明について、和泉委員はいかがですか。

和泉委員

難しい議論なので直ちに答えを出すのは難しいと思います。

6つのまちづくりの目標の中でも、「⑤つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」は、第6次総合計画のオリジナルなので、大切にすべきです。賛成なのですが、書きぶりと言いますか、総合計画の目標ということは、34施策を8年間展開することによって、パーソナルな市民一人ひとりに自分らしさが返ってくる、一人ひとりが自分らしさを気に留めるこ

とになります。施策でこれを実現するのは難しいです。

7ページの図に、「人口減少」、「少子高齢化」、「安心安全と健康な暮らしへの関心の高まり」、「地域コミュニティの変容」など、その背景が示されています。元々、一人ひとりがパーソナルな存在であることは大切でしたが、今まで以上に大切になっていきます。そのような時代において、八尾市で自分らしさを見つけることができるのは、魅力の1つです。時代背景の社会状況からすると、「⑤つながりを持ち自分らしさが実現できるまち」というのはつじつまが合う目標だと思います。昨日考えていたのですが、そもそも「らしい」という言葉自体が難しいです。素敵な便利な言葉で、「文化」、「まなざし」と同様、「らしい」は、社会学でよく使うのですが、便利なだけに説明が難しいです。私は、総合計画などの会議で資料を見るとときには、自分が市民に聞かれたときに説明できるかという観点で読むのですが、「⑤」だけはうまく説明できません。何となくしか伝えることしかできません。行政の方々が市民に聞かれたときにどのように答えるか興味があります。総合計画の目標に挙げるため、大切にしたいのですが、私自身もノープラン、ノーアイデアです。

清水部会長

今の点は、大きな宿題になりますが、説明がつかないというのは問題です。それぞれの施策について、行政の説明がつく表現を意識していただきたいと思います。

野村委員

「自分らしさを尊重できるまち」であれば、納得できます。「つながりを持ち」と「自分らしさ」は相反します。これには、「学生のと看に、皆でトイレに行く」というイメージをもちました。「一人の時間を大切にするか、皆で一緒に行くか」という相反するものを感じて、そのどちらかかなと思います。「つながり」は別のところに置いてあり、自分らしさを尊重できるのであれば、今の「個々を大切にする」という価値観にマッチングすると思います。

清水部会長

よい対案をいただきました。

谷原委員

「目標③活気にあふれ、誰もが誇りを持ち活躍できるまち」は産業のことを書いていますが、私は産業の役所なので、読んでいて違和感があり首を傾げました。20ページの星取表を見ると、「産業労働」と「魅力向上」の記載は、シティプロモーション的な部署と商工部と一緒に文書を作るところなるだろうと思います。この文章になっている原因が見えてきました。「企業の技術が注目されると、イメージが向上し、誇りにつながる」という三段論法のストーリーは、都市の活性化としては、「企業の技術が注目されると、新たな風が流入

し、活性化につながる」というイメージだと思います。「イメージが向上するというふうに行くのか」という疑問があります。イメージ向上なので、シティプロモーションの目線ではよいのですが、シティプロモーション部局と商工部局で作ると、変に混ざっているという違和感があります。根本的に変えるというより、言葉をつけ足すか少し整理すれば、スッキリすると思います。もう少し練ったほうがよいです。

「可能性があります」という言葉も弱気です。「きっかけとなります」と言い切ってもよいと思います。

清水部会長

皆様、積極的なご発言をありがとうございました。本日を含め3回に渡り、非常に様々なご意見をいただけたと思います。これまでのご意見、また他部会でいただいたご意見も踏まえ、パブリックコメントに付す素案の検討をするため、後日、部会長・副会長と事務局で調整会議を実施したいと思います。文言や構成を含めての修正については、部会長・副会長預かりとさせていただきます。皆様よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、部会長・副会長預かりとさせていただきます。

3. その他

事務局

今後の予定についてですが、先ほど部会長からもありましたように、1月21日の部会長・副会長調整会議にて素案の検討を行い、パブリックコメントに付しますが、パブリックコメントの期間は2月3日(月)から3月2日(月)までという予定になっております。また、パブリックコメントを受け、修正したものを3月19日(木)部会長・副会長調整会議にて検討いただき、第2回全体会にて答申案をご審議いただきたいと思いますと考えております。第2回全体会は、前回もお知らせしましたが再度お伝えします。3月25日(水)午後6時30分から開催します。場所等につきましては、後日連絡いたします。

清水部会長

3回に渡って部会にご出席いただき、ありがとうございました。皆様のご意見が反映されるよう、部会長・副会長調整会議で検討します。

4. 開会

清水部会長

これをもちまして、「第3回八尾市総合計画審議会 第2部会」を終了します。

以上